

「深き淵より」

(詩篇 130 の 1-5)

深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。
主よ、この声を聞き取ってください。嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。
主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら
主よ、誰が耐ええましょう。
しかし、赦しはあなたのもとにあり
それゆえに 人はあなたを畏れ敬うのです。
私は主に望みをおき
み言葉を待ち望みます。

Out of the depths I cry to you, O LORD;
O Lord, hear my voice. Let your ears be attentive to my cry for mercy.
If you, O LORD, kept a record of sins, O Lord, who could stand?
But with you there is forgiveness; therefore you are feared.
I wait for the LORD, and in his word I put my hope.

人は、さまざまな意味での深き淵にある。今回のような大災害、あるいはいつの時代にもある病気、家庭や仕事のなかでの苦しみ、そして自らの内にある罪のゆえに生じる悲しみ等々。しかし、自分はそのようなところにいない。別に神を信じなくとも、明るく、幸いだと思っている人もいるだろう。しかし、それは、自分がいかに本当に正しいあり方からはずれているか—罪を持っているか—ということを知らないからである。なぜなら、聖書に記されているような純粋な愛や真実、あるいは正しさの究極的基準であるのが神であり、そのような基準を知らなければ、自分がどこまで離れているかも分からないからである。

人間の最も深い苦しみや悲しみは、愛するものとの別離でも、地位や物が失われることでもない。人間は精神的な存在であり、心の動きが根源にある。その心が正しいあり方でなければいかに健康であり、家族がいて職業があっても、なお魂の深みにおいては本当の幸いを実感できず、そのような幸いは突然の事故などで簡単に崩れていく。

聖書が一貫して述べているのは、人間の根本問題は心であり、その心での数々の過ちがめぐわれることこそ、真の幸いであり、それが罪の赦しということである。さまざまな苦しみや悲しみの深い意味は、私たちが罪を知らされるために生じると言えるだろう。罪赦され、そこから神に立ち返るところにこそ、人間の最も深い幸いがあり、そこからすべてがはじまるからである。

罪赦されて始めてこの宇宙を創造し、愛をもって支えておられる神との生きたつながりが与えられるようになる。そしてそこから神の持つておられる力や支え、導き、そして消えることのない希望が与えられ、天の国にある清い賜物が与えられるようになる。

このような天からの賜物こそ、いかなる状況にあっても一死の迫る最期のとき、またあらゆるものを失ったような悲しみや混乱の時でもなお、私たちを支え、この世のものでない神の平和を与えられることを期待できる。



ヒトリシズカ (一人静)

徳島県小松島市 日峰山 2011.4.7

このヒトリシズカは、わが家のある山にかなり以前から毎年この可憐な花を咲かせています。春の野草らしい、素朴な美しさ、つつましさを感じさせる花です。茎は直立し、花は4枚の葉が出てくると同時に白い穂のようになって一つだけ現れ、それがこの花の名前になっています。葉はこのようにはじめはこげ茶色ですが、後には緑色になります。春の喜びを、まっすぐに出てくる白い花が表していて、この花を見るとほっとするような雰囲気なたたえています。寒い冬をおえて、待ちかねたようにまっすぐに茎を立てて咲く純白の花、土の中からこのような純粹さをたたえた花を創造する神のみわざに驚かされます。

(写真、文: T.YOSHIMURA)